



モア通信 No.10

2017 年 3 月 2 日

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

モアネットの原点は、「個人の尊厳」と「いのちファースト」

～認知症をテーマにした演劇ワークショップを通して～

加藤 博史

理不尽な差別や過酷な貧困のなかであえぎながら、それでも、人としての誇りを失わず、一生懸命に生きてきたハルモニ、ハラボジのことを、「なつかしく」思うのは、なぜでしょう。人のほんとうの自尊心(プライド)は、容姿や知能や服飾や地位・財産にあるのではなく、人を愛するパワーにあらわれます。そして、愛の深さは、自尊心の深さであり、自分が生きていること丸ごとへの感謝の深さだと思います。ハルモニ、ハラボジらは、自分のことを放っておいて、汗して働き、家族をいつくしんできました。それは、私の祖母たちの姿とも重なるのです。

子育ては親育て・みのりのもり劇場の人たちと、モアネットのメンバーが、認知症の人を地域で見守るというテーマで、お芝居を創り上げ、京都市民生児童委員連盟の山下治雄会長らの尽力で、響都ホール、吉祥院小学校、京都テルサで、地域の人たちに観てもらうことができました。

その最大の見せ場は、認知症になった母親に「どれだけ自分が愛されていたか」気づく場面です。認知症のある人のケアは、わたしたちの人としての育ちであり、その地域ぐるみの見守りは地域育てだといえるでしょう。

トランプの登場で、むきだしの「自分さえ良ければ」、「金もうけこそ目的」、「自分だけが正しく外は憎悪すべき敵」という時代になりました。いまこそ、「分かち合い補い合い思いやり合う」つながりを、ひるまずたゆまず地道に創って行きましょう。

人間は、卑しく醜い面を沢山抱えています。それをのりこえる愛と信頼もしっかり宿しています。お芝居に魅入ってくださり、「人の尊厳を守りたい」という内なるパワーを元気にされた研修参加者のさわやかな涙が、それを証明しています。

「自立」は意志と目的をもつことを意味します。認知症のある人の「自立」も十分可能であり、大切です。人間は国家や企業の道具ではなく、「個人の尊厳」を持っています。エンパワメントも自己決定の原理も、「個人の尊厳」が土台になっています。でも、人間が中心ではありません。いのちのつながりが中心です。「いのちファースト」なのです。それを感じたら、自然に、ちがいを尊重し、人として信頼を築き、差別のない社会を創っていきたいと思います。モアネットの原点は、このふたつにあるのではないのでしょうか。

< 総会の様子 >



< 講師の牧田幸文さん >



第

< 夕陽紅の会 >

目的

- ・健康・生活や介護予防についての情報を**中国語で提供する**
- ・引きこもりがちな1世帰国者の見守り・相談等
- ・中国語と中国の**文化を理解した**交流と支援の場の提供

介護予防教室



利用者で作った「夕陽紅舞踊団」



総会報告

2016年7月30日、京都コリアン生活センターエルファにおいて、第11回総会が開催され、2015年度の報告、2016年度の計画、新役員について報告し、承認されました。詳細は5, 6ページをご覧ください。

2016年度の活動は、①外国人福祉委員の活動を充実させるべく、事務局と福祉委員とで振り返りや情報交換などを大切にする、②昨年度同様、「子育ては親育て・みのりのもり劇場」と協働で劇を作成し、啓発活動を進める、③他機関と連携してネットワークを広げることにより、外国にルーツある人たちへの支援の輪を広げることを柱に活動を盛り上げていきたいと考えています。

第二部

「中国帰国者(中国残留孤児)1世たちの今
～「夕陽紅(シーヤンホン)の会」活動から
多文化共生社会を考える～
牧田幸文

「夕陽紅の会(シーヤンホンの会)」という名前は、夕陽が赤く輝きながら沈むように、中国帰国者1世の晩年も美しく輝くように、という願いを込めて中国帰国者2世のボランティアの人たちが名づけました。夕陽紅の会は、2011年4月に高齢化する中国帰国者1世の支援を目的に、帰国者2世と支援者たちによって発足しました。

中国帰国者1世とは、第二次世界大戦の終戦以降、中国大陆に残された中国残留日本人孤児、13歳以上であった中国残留婦人とその配偶者のことです。戦後の混乱期と日中の国交が断絶したなかで、中国残留日本人孤児の多くは、生き延びるために中国人の養父母のもとで暮らしました。日本への帰国がなかったのは、1980年代後半から90年代にかけてであり、すでに彼(女)らの多くは40歳代後半でした。中国帰国者1世は、帰国後、日本語の習得をし、仕事と子育てをしてきました。帰国後の生活も生活文化が違い大変だったようです。

現在、京都府内の帰国者1世は約200人といわれ、平均年齢は70歳を超えています。夕陽紅の会は、苦労した中国帰国者1世の暮らしをよく知っている中国帰国者2世たちが集まり、高齢化する中国帰国者のために、毎月醍醐と向島で介護予防教室を開催しています。

介護予防教室では、中国語で健康や介護そして地域生活に関する情報提供を行っています。また、簡単な体操、ゲームそして手芸等を実施し、中国帰国者1世の人たちを楽しいひと時を過ごしてもらえるよう工夫をしています。時には、中国人留学生が参加し、若い人たちとの世代を超えた交流も行っています。毎年、9月には敬老の会、10月には遠足、そして2月には春節の会を実施しています。夕陽紅の会は、中国の文化的背景を持つ中国帰国者1世たちが安心して地域で暮らしていくことができるようなお手伝いをしています。

「認知症フォーラム」(2016年9月9日)

～多文化を認め合える地域を目指して～

第1話

みのりのもり劇場とのコラボ寸劇、第2弾として、昨年3月に市民向け「認知症フォーラム」を行いました。その後、吉祥院学区の山下民生児童委員会長が、地元でもお願いしたいと言ってくださり、9月には吉祥院小学校で2度目の公演。さらに、2017年1月には、京都テルサで「南区地域福祉推進のためのシンポジウム」に出演し、多くの方から共感をいただきました。

認知症のある高齢者もコリアン高齢者も、見た目だけではわからない、「生きてきた背景や大事にしているもの」があります。それを周りの人たちが理解し本人の気持ちに寄り添うことで、認知症のある人も地域で生活することができるのです。

認知症のある人と関わることによって、思いもかけない多くの出来事に遭遇しますが、「生きる」とはどういうことなのか、ということを私たちはたくさん教えてもらっているのです。



独居のおばあちゃん宅を初めて訪問することになった老人福祉委員さん。おばあちゃんに認知症があるかもしれないと感じるも、対応の仕方がわかりません。ちょうどつけたテレビで認知症状への対応について特集をしていて、それを見ながら必死で向き合います。

第2話



おばあちゃんの認知症状が進み、介護サービス利用が始まりましたが、ある日、おばあちゃんはショートステイから抜け出し…。無事に見つかり、老人福祉委員、民生委員、町内会長さん、近所のおばちゃんが集まります。おばあちゃんに振り回される福祉委員さんは、もうやめる！と言いますが、みんなが思いを受け止め、励まします…。

「寸劇を通してつながる想い」 李英玉(りよんお)

在日コリアン高齢者への在宅支援をテーマにした寸劇、「あなたと今、出会った」を二年前に見た時の感動が忘れられず、第二弾寸劇の出演者を募集の話があった時は即座に手を挙げ参加することとなりました。

NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場とモアのコラボ芝居は二回目になりますが、今回は認知症のおばあちゃんと、初めて関わることになった老人福祉委員、その周囲にいる地域の人とのつながりの中で起こるドラマになっていて、私はカリスマケアマネジャー役を演じました。始めはなかなか上手く演じられず不安だらけでしたが、出演者の方たちや加藤博史先生と何度も繰り返し討論していく中で、この劇で伝えたい想いに気づき自然と劇の世界に入っていくことができました。またこの劇を通して、老人福祉委員や民生児童委員など地域で活躍されている方たちへ、認知症の理解、地域で一緒に支えていく大切さを伝えることで、一人でも多くの認知症の方が安心して暮らせる地域づくりを共に目指していく良いきっかけとなりました。今年の3月に披露して以降、劇の依頼があり、昨年9月に続いて今年の1月にも披露することができました。今後も役作りに磨きをかけて頑張りたいと思います！

～日々の外国人福祉委員活動～



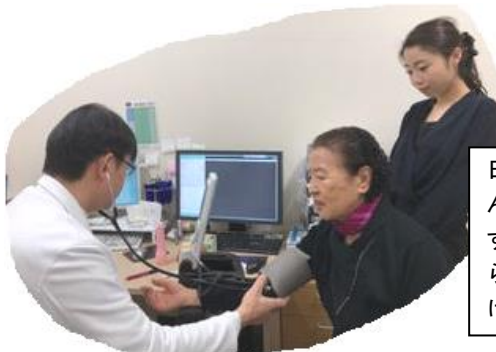
最近この活動を始めました。月1回、一緒に散歩したり、韓国の写真を見ながらおしゃべりしたり。楽しみがちょっとでも増えたらと思っています。(中田和子)



毎週様子を見に来ています。ベッド上の生活ですが、「ねえちゃん、そこ座り!」と言って迎えてくれます。誰かがそばにいてくれると安心されるようです。(宮本直美)



障がいのあるコリアン女性に朝鮮語を教えながらおしゃべりしたり、独居の高齢者宅を訪問しています。(鄭英姫)



日本語の分からないオモニ(おかあさん)の受診にいつもつき添っています。ようやくコリアンの先生に診てもらうことができ、オモニの不安も解け本当にひと安心です♪(吳淑姫)



「こんにちは! あ〜、風邪ひかはったんやね〜。大事にしてくださいね。」男性を銭湯に連れて行くこともあります!(李宗一)



90歳を過ぎても一人でお元気に過ごしておられるオモニ宅を初訪問。毎日しっかり生活しておられる様子を聞かせてもらいました。(姜主淳)



80代独居のコリアン男性のお宅に月1回訪問し3年目。初めの頃は「福祉委員として励まさないや」と力んでいました。1年2年と過ぎるうち、お元気そうなら安心で、しんどそうなら心配で自然に話が出てきて、訪問によって私も励まされていることを実感しています。(井上朋子)

今後も日々の活動報告、生の声を入れていきたいと思ひます〜(つづく)

2015年度の活動(2015年4月～2016年3月)

2015年度事業報告

1. 外国人福祉委員派遣事業

電話相談を受けて情報提供したり、関係機関からの依頼に応じて、自宅を訪問し、安否確認・話し相手・傾聴、生き甲斐支援を行いました。また、定期訪問が必要な場合、孤立しがちな対象者等については、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら見守りました。そのほか、日本語が話せない方には、医療・福祉・住宅関係者との連絡における通訳や、母国語での傾聴をしました。90人の方に対して27人の福祉委員が1100件の生活支援活動を行いました。

2. 外国人福祉委員の研修

7月の総会では、「今、外国人福祉委員に求められているもの」と題して、2011年に行った東九条と醍醐地域での実態調査をもとに、地域でのサポートネットワークが必要であることを講師から聞き、外国にルーツを持つ方への支援のあり方についてグループディスカッションを行いました。

また、10月以降、毎月外国人福祉委員の集まり（お茶会）を持ち、医療・福祉に関する講座や活動の振り返りなどを行いました。

3. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

3月に第9号通信を発行しました。

運営委員会は随時行い、大学研究者も含め、活動の充実化に向けて話し合いました。

また長寿福祉課と随時連絡を取り、相談、情報交換しました。

4. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

3月に、「子育ては親育て、みのりのもり劇場」の協力を得て、市民フォーラムで、認知症演劇ワークショップ「今あなたと出会ったPART II」を公演しました。認知症など、その人の持つさまざまな背景を知って関わることの大切さについて、外国にルーツのある人たちも同じであることをモアネットとして参加者に伝えました。

5. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「きょうと外国人支援ネットワーク（現在はきょうと多文化支援ネットワーク）」や「ハナネット」に事務局メンバーが参加し、事業協力、外国籍市民や在日コリアン支援グループと情報交換を行いました。

2月には、外国人支援ネットで「グローバルセッション」を企画し、外国につながる子どもたちの支援について、学習と意見交換を行いました。

★きょうと多文化支援ネットワークホームページ

<http://www.kcif.or.jp/HP/jigyo/katsudo/jp/shien-net/>

支援内容内訳

福祉サービス紹介・指導	介護保険	受付相談	0
		サービス利用・内容	1
		その他	0
	生活保護		1
	高齢者福祉		0
	障害者福祉		0
	その他の保健福祉サービス		0
	小計		2
	相談内容	安否確認	
生活相談		632	
家族関係相談		374	
人間関係相談		260	
生きがい相談(趣味活動)		234	
こころの相談		91	
経済面の相談		5	
言語・コミュニケーションの問題		31	
民族文化・歴史等の問題		103	
健康(病気・体調)相談		621	
栄養食事関連相談		178	
その他		77	
小計		3562	
関係機関との連絡調整	区役所	福祉事務所	25
		市民窓口等	1
		その他	8
	自治会・地域団体		2
	民生委員/老人福祉員		0
	社会福祉協議会		0
	ケアマネジャー、ヘルパー等		50
	その他(ライフライン・業者等)		68
	小計		154
直接対応	緊急対応	病院・診療所への連絡	0
		ケアマネなど関係者連絡	0
		警察・消防車出動要請	0
	病院同行・入退院 手配など		36
	医療通訳		7
	家事援助		26
	身体介護		18
	その他		0
	小計		87
合計			3805

京都モアネット役員

2015年度収支決算書
(2015年4月1日～2016年3月31日)

(単位:円)

【顧問】

小澤 亘(立命館大学教授)
 金 尚一(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)
 河 相泰(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)
 田中 宏(一橋大学名誉教授)
 鄭 禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ顧問)
 仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)
 水野直樹(立命館大学文学部客員教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)
 金 周萬(韓国民団京都府本部福祉事業推進委員会委員長)
 紫 松枝(在日本朝鮮人総聯合会山科支部委員長)
 朴 錫勇(札の辻診療所所長、
 NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

【運営委員】

加藤博史(兼任)
 紫 松枝(兼任)
 金 周萬(兼任)
 朴 錫勇(兼任)
 岡野英一(龍谷大学教授)
 南 珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)
 宋 基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)
 石川久仁子(大阪人間科学大学准教授)
 金 洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ監事)
 金 秀煥(朝鮮総聯南山城支部委員長)
 村木美都子(NPO法人東九条まちづくりサポートセンター
 まめもやし事務局長)

【会計】

金 洋子(兼任)

【会計監査】

叶 信治(希望の家カトリック保育園園長)

【事務局長】

鄭 明愛(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

科目	金額		
1. 収入の部			
京都市助成金		1,120,000	
賛助寄付金	720,641		
会費	13,000		
団体会費	5,000	738,641	
預金利息	415		
雑収入	1,000	1,415	
当期収入合計 (A)		1,860,056	
2. 支出の部			
1)福祉委員派遣事業に係る費用			
・報酬費	483,500		
・上記に関する交通費	15,400		
・連絡調整費	195,000		
・事務費	27,784		
・通信費	63,906		
・賃借料	600,000		
・什器備品	0		
・雑費	8,373	1,393,963	
2)福祉委員養成講座			
・連絡調整費	2,000		
・通信費	9,348		
・雑費	2,961	14,309	
3)啓発事業			
・活動費	4,500		
・通信費	10,488	14,988	
当期支出合計 (B)		1,423,260	
当期収支差額 (A)-(B)			436,796
前期繰越差額			1,048,140
次期繰越額			1,484,936

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12
 京都コリアン生活センターエルファ内
 京都外国人高齢者・障がい者生活支援
 ネットワーク「モア」(京都モアネット)
 TEL 075-681-2721/FAX 693-2555
 Email kyotomorennet@yahoo.co.jp
 郵便振替口座:00990-4-314429
 加入者名:京都外国人高齢者障害者
 生活支援ネットモア
 ♡支援カンパよろしくお願いします♡

編集後記

▼二〇〇六年からモアネットの活動が始まり、通信も一〇号となりました！みなさまの応援、本当にありがとうございます。▼主に在日コリアン高齢者や障がいのある人たちに、さまざまなサービスや情報が届くようにと始まったこの活動は、徐々に対象が広がっています。市内にある他の外国人支援グループとネットワークを作りながら、多様な背景のある人たちが、自分らしく、個性を出し合い、刺激し合うことで、日本に住むすべての人の心が豊かになればと思います。▼視覚・聴覚に超わたりやすく伝えることのできる「寸劇」の威力にびっくりした一年でしたが、さらにいろんなツール(苦手なスマホとか笑)を駆使し、ネットワークを広げていきたいと思えます。▼今後ともどうぞよろしく願います(笑)